

2014年4月20日発行
 通巻133号
 第1・第3日曜日に
 お届けします

Illustration: Hashimoto Satoshi

[朝日新聞グローブ] 世界とつながる日曜版

©朝日新聞社2014年 第3種郵便物認可

G-1

ことばに

何語を使って暮らすのか。
 気にしたことはありますか？

He aha ia mea he 'ōlelo?
 ことばって なんだろう？



photo: Goto Eri

めざめる

language awareness

取材・国末憲人、後藤絵里、田玉恵美(文中敬称略)

この地球と、生きていく。

共に創る。共に生きる。
 大和ハウスグループ
www.daiwahouse.com



contents

ことばにめざめる

- ハワイ語は生き続ける **G-2**
- 島言葉を学ぶ理由 **G-3**
- エストニアの「言語警察」 **G-4**
- 国民を束ねるのは伝説？ **G-5**
- 移民言語の明日 **G-6**
- ことばにめざめる **G-7**

- G-8** 現場を旅する
キルナ(スウェーデン)
- G-9** 世界のスポーツ
氷上のスポーツ 日中韓の固いぎずな
- G-10** いまを読む
デジタル化急ぐ欧州の新聞
世界の主要紙で連携強化を
- G-11** ニューヨークタイムズ・マガジンから
15歳の人気シェフ
- G-12** 映画クロスレビュー
「プリズナーズ」
- G-13** ロンドンの書店から
愛国と裏切りのスパイ



G-14 突破する力
石井リーサ明理
 照明デザイナー

globe.asahi.com
GLOBE のiPad用アプリ、AppStoreで無料配信中
 Twitterで発信中 @asahi_globe

(G-1面から続く)

朝

7時30分、そろいの赤いシャツを着た子どもたちが続々と登校してきた。友だちとのおしゃべりに夢中な子、追いかけてくる子。みんな朝から元気いっぱいだ。

「Aloha kakahiaka e ke kumu! (アロハカカヒアカエケクム!)」(おはようございます、先生!)

「Aloha, Pehea kou hopenapule me kou'ohana? (アロハペヘアコウホペナプレメコウオハナ?)」(おはよう、家族との週末はどうだった?)

ハワイ島・ヒロの「ナーヴァヒー校」。幼稚園から高校まで約300人が学ぶこの学校は、ほかの学校とちょっと違う。授業はもちろん、職員同士の会話も保護者との連絡も、ハワイ語しか使わない。英語を学ぶのは小学5年からだ。

ハワイ語はかつてハワイの共通語だったが、1898年に米国に併合され、学校教育で使うことを禁じられた。ほとんどの州民はいま英語しか話さない。

ナーヴァヒー校教員のカーネ・マカモク(32)は同校の卒業生。6歳の娘と3歳の息子もこの生徒で、家庭でもハワイ語で育てている。先住民系の夫(33)は英語で育ったが、高校で学んだ経験を頼りに、妻の助けを借りてハワイ語を使う。「英語は放っておいても身につく。民族の言葉を習うのは自然なことだよ」

若い世代がこうした考えを持つようになるまでには、30年に及ぶハワイ語復興運動の歴史があった。

1980年代初頭、96万の州人口のうちハワイ語を話す人は2000人程度に落ち込み、18歳以下は50人もいなかった。カーネの母、ケイキ・カワイアエア(57)は子育て中の出来事が忘れられない。親子で買い物をしていると、子どもがハワイ語を話すのが珍しくて、人々があとをつけてきた。「もしかして、ハワイ語をしゃべってるの?」。時にはお年寄りが涙を流した。「長いこと、子どもがハワイ語を話すのを耳にしなかったものだから」

ケイキ自身は英語で育った。先住民の血を引く80代の父親でさえ、同じ世代の多くの人たち同様、ハワイ語は上手に話せない。だが、ケイキは祖父母が話すハワイ語の響きや、ハワイ語で話す時の自信に満ちた表情に魅せられた。ハワイ

E ola ka 'ōlelo Hawai'i

ハワイ語は生き続ける



ナーヴァヒー校(上下とも)では日本語や漢字の授業もある。子どもたちの言語への関心は高い

大学マノア校でハワイ語を学び、その言葉で子どもたちを育てた。

大学の先輩に、現在ナーヴァヒー校長のカウアノエ・カーマナ(62)や、その夫でハワイ大学ヒロ校ハワイ語学系教授のピラ・ウィルソン(63)がいた。時は70年代。米国の公民権運動やベトナム反戦運動に刺激され、少数者の権利を守る運動が世界に波及。ハワイでは音楽やカヌーなど先住民文化の再評価が進んだ。78年にはハワイ語を英語と並ぶ州の公用語とする州憲法の修正も実現したが、条件付きの限定的なもので、公教育でのハワイ語使用は禁止されたままだった。

「ハワイ語には先住民の考え方や世界観が投影されている。言葉なしに文化の伝承は不可能だ」。そう考えていたピラたちにヒントを与えたのは、大学で共にハワイ語を学んだ、同じポリネシア語系のマオリ族の青年だった。彼は生まれ育ったニュージーランドに帰ると、赤ん坊や就学前の子どもをマオリ語で育てる幼稚園を始めた。「言葉は、それを話す子どもたちがいなければ繁栄しない。次は君たちの番だ」

マオリの友に背中を押され、ピラとカウアノエ夫婦は83年、仲間の教師7人でNPO「プーナナ・レオ(言葉の果)」を立ち上げ、ハワイ語の幼稚園を開いた。ドイツ系白人のピラはもちろん、先住民系のカウアノエも英語で育ったが、言葉の復活を誓い、夫婦間の会話をハワイ語に切り替えた。息子と娘もハワイ語で育てた。

「民族の言葉を学んでほしい」と願う先住民系の親たちを中心に、ハワイ語幼稚園は各島に広がり、親や教師は公教育でのハワイ語使用を求めて州の議会や政府に法改正を訴え続けた。運動は実り、87年、全米初の先住民言語で教える小学校が公教育として始まった。

最初の数年は専用校舎もなく、公立校の教室を借りた。ハワイ語は「格下」と見られ、ハワイ語学校の生徒たちは公立校の生徒たちからかわれた。だが「少しも気にならなかった。自信があったから」とピラとカウアノエの長女ケリイ(30)は話す。ナーヴァヒー校の大学進学率は8割と高く、「ハワイ式教育で礼儀が身につく」「学習態度が良い」という理由で、先住民系でなくてもハワイ語学校に入れる親もいる。

州内にはいまハワイ語で教育する学校が幼稚園から高校まで30ほどあり、約2000人が通う。18万という州の就学年齢人口からすればわずかだが、運動開始当初に生まれた世代が親となり、若い話し手が増えている。消滅の危機にあった言語が次世代に継承された世界でも数少ない例だ。

ケリイは8年前、州観光局が新設したハワイ文化ディレクターに就いた。地元空港のハワイ語表示や2言語での音声案内は実績の一部だ。「両親は兄のフリラウと私を、言語の復活は可能だと証明するための実験台にしたよ」とケリイは笑う。「それはとても幸運だった。言葉を通じて自分が何者かを知ると同時に、世界の多様性を理解できたから」。そう言う、大好きなハワイ語の一節をノートに書いてくれた。

E ola ka 'ōlelo Hawai'i.
ハワイ語は生き続ける。(後藤絵里)

[ハワイ語]・言語学上はマライ・ポリネシア語族の一派であるポリネシア語派に属す。タヒチなどから移住したポリネシア人によって8世紀以降、ハワイ全域で話された。

「大が小をのみ込む現象は世界中で起きている。小が消えてから人々は気付く。「あの小さな宝石はどこへ行った?」とね」
——フリラウ・ウィルソン



E komo mai
ようこそ

Aloha
こんにちは

ケリイ
Pehea 'oe?
お元気ですか?

ケイキ

Mahalo nui loa
ありがとうございます

カウアノエ

ピラ

グローバル化、ネット…英語「一強」の背景

世界には約6000の言語があるとされるが、定まった数字はない。半数以上は話す人が1万人に満たず、世界人口の約半数が使用頻度が高い上位10言語を話しているという。

どの言語も生まれた時は、小さな共同体の中だけで通じたと考えられている。より広範囲の国家が形成されると、統治する人々が使う言語が国内の主流となり、それ以外の言語との間に力の差が生まれた。帝国主義時代には英語、仏語、スペイン語といった帝国の言語が勢力を増し、先住民言語や地域の少数言語は少しずつ消えていく。ただしそのペースは今より緩やかだった。

言語消滅のペースが速まるのは20世紀に入ってからだ。特に1990年代以降のグローバル化と情報化の影響が大きい。市場がつながり、人々が頻りに国境を越え、電話やネットで簡単にコミュニケーションするようになると、英語や中国語といった話し手の多い「大言語」はますます多くの人が使うようになった。中でも英語は国際共通語としてほぼ「一強」の状態だ。

国連教育科学文化機関(ユネスコ)の2009年の報告によれば、約2500の言語が消滅の危機にあり、日本のアイヌ語を含む538の言語が最も危険度が高い「極めて深刻」に分類された。うち199の言語は話し手が10人以下だった。言語の数は今世紀末には半減するともいわれる。

一方で欧州には、どんな少数言語でも人は母語を話す権利があるという「言語権」の考え方がある。少数者の権利を認めつつ社会の活力を増やすために、誰もが母語以外の言語を二つは学ぼうというのが欧州連合の言語教育政策だ。(後藤絵里)

方言か言語か

言語と方言の区別は難しい。「言語学的に明確に切り分けることはできない。政治的、社会的な要素も強く働いてくる」と名古屋大学大学院教授(言語学)の町田健はいう。

同じ言語に属するかどうかを判定する際、しばしば目安とされるのは、「互に通じるかどうか」。通じるなら同じ言語で、違いは方言によるものだと考える。だが、「通じる」かどうかは主観に左右されやすい。

互いにほぼ通じるのに、言語名が異なる例も多い。例えばセルビア語とクロアチア語。旧ユーゴスラビア時代には「セルボ・クロアチア語」という一つの言語だった。だが国が分裂すると、言語にも別々の名前が付いた。

琉球諸語(しまくとぅば・島言葉)も、言語と方言の間で揺れてきた。戦後、米国統治から脱却し「本土並み」を目指した時代に「琉球語」と呼ぶことは、沖縄には差別とも映った。いま「琉球方言」と呼ば、本土を格上とする序列を思い浮かべる人たちがいる。

日本政府はアイヌ語を日本語とは別の言語とする一方、琉球諸語については「言語学的に同じ系統にあることから、日本語の方言と考えている」(文化庁国語課)との認識だ。だが現実には、日本語と琉球諸語の間には、同じラテン語系のイタリア語とスペイン語以上の違いがあると話す言語学者も多い。こうした微妙な問題への配慮からか、消滅危機言語の現状をまとめたユネスコのレポートは、すべての言葉を「language(言語)」と呼び、「dialect(方言)」は使っていない。

そもそも「言語」が抽象的な概念であることを忘れてはいけないと、町田は念を押す。「現実の世界で使われているのは方言だけ。日本の標準語も、もとは東京方言。言語は方言の集合体にすぎないと考えた方がいい」(田玉恵美)

ぬーんち わったー しまくとぅばならてい あっちょーがなぜ私たちは島言葉を学ぶのか

「何

それー」「チョーかわいい」。琉球大学大学院生の親川志奈子(33)はそんな日本語をちゅうちよなく使って育った。沖縄県沖縄市出身。曾祖母が話す琉球のしまくとぅば(島言葉)は祖母の通訳なしでは理解できず、ただ「ダサイと思っていた」。

転機は2003年。ハワイ留学でハワイ語復興運動に触れた。日本が米軍基地を沖縄に押しつけていることは許せないと考えているのに、言葉を奪われたことには無頓着だった自分がかげんとした。おまけにハワイ語を取り戻そうとする人たちの前で、しまくとぅばも話せない自分が英語を学ぼうとしている。「私はいったい何てことをしてるのか」

研究テーマを英語からしまくとぅばの復興に変えると祖母は泣いた。「なまりのない綺麗な日本語」に加え、英語まで話せる自慢の孫が、なぜいまだ「あんな汚い言葉」をわざわざ勉強するのか、と。

親川はいま、そのしまくとぅばを学びながら、保存継承を担う市民団体の役員や沖縄県の普及推進専門部会の最年少

委員を務める。本土でも地方の言葉は衰退しているが、親川は「沖縄はそれとは違う」と言う。しまくとぅばは日本が沖縄を「植民地」にしたから奪われたのだとの思いは、米軍普天間飛行場移設をめぐる日本政府の対応を見ても深まるばかりだ。

琉球王国を沖縄県として日本に組み込んだ明治初期の琉球処分以来、沖縄では一貫して厳しい標準語教育が行われてきた。子どもたちは授業で「標準語を使おう」というポスターを書き、電柱に張った。地元の言葉を使うと「方言札」を首にかけさせる罰は戦後まで続いた。

2歳の長男がいる親川は、しまくとぅばだけを使う保育園をつくれたら、と願う。「本土の人は自然に日本語を話しているつもりだと思うけど、実際には国語教育の時間が確保され、そのために税金も使われている。私たちはボランティアでやるしかない」。日本語を話す自分が嫌いなわけではない。ただ本土の人と同じように自分の言葉を学び、話したいだけだ。

しまくとぅばはこのままでは消えてしまいかねない。県が昨年初めて調べたところ、人と話す時に「主にしまくとぅばを使う」と答えたのは10%。20代では2.2%だった。危機感から、しまくとぅばを残そうとする動きが広がっている。

県は今年度、小中学生に配るしまくとぅばの読本づくりなどに2600万円の前算をつけた。関連予算としては2年前の10倍だ。那覇市は既に小冊子を作り、全小学校が活用している。那覇市の職員採用試験の面接では、評価の対象にはしないものの、しまくとぅばによる自己紹介も導入した。市内にはしまくとぅばの音声で案内するATMまである。ご当地ヒーロー「琉

神マブヤー」は、しまくとぅばを操って人気だ。

沖縄の政治的な自己決定権を確立するために言語の復興を、との議論も盛り上がる。3月24日、しまくとぅばの復興を目指して那覇市文化協会が開いた講演会では、母が沖縄出身の元外務省主任分析官、佐藤優が「(言語を回復し)文化で政治を包み込め」と訴えた。しまくとぅばは集落ごとに異なり、800通りの多様性があるとも言われる。佐藤は自立のためには「(沖縄の)標準語を持つことも大切だ」との持論も展開した。

こうした論調に、沖縄・宮古島出身の詩人、松原敏夫(66)は胸騒ぎも覚える。母語は宮古語。しまくとぅばの一つだが、那覇では全く通じない。大学進学で沖縄本島に移った1960年代、離島出身者に対する差別は色濃く残っていた。しまくとぅばの復興自体に異論はないが、時として那覇中心主義に見える。「一部の言語を中心に制度を作る。日本が沖縄にしたことを、沖縄が離島に対してやることにならないだろうか」

沖縄本島中部の読谷村に住む写真家、比嘉豊光(63)も、復興運動に関わりつつ、その行方を注意深く見守っている。「いまはちょっとしたブーム。しまくとぅばが見直されるのは素晴らしいことだが、表面的に言葉だけが注目され、そこに詰まっている沖縄の文化が二の次にされないか心配だ。言葉だけが残ればよいというものではないでしょう?」(田玉恵美)



那覇市が始めた「ハイツイ運動」のロゴマーク

「方言コスプレドラマ」の登場、大ヒットの「あまちゃん」

昨年のNHK連続テレビ小説「あまちゃん」の大ヒットに、日本大学教授(社会言語学)の田中ゆかりは日本の言語環境の変容を見る。主人公が朝ドラ史上初の「ニセ方言ヒロイン」だったからだ。

祖母が住む架空の街・岩手県北三陸市に東京からやってきた高校生の天野アキ。「スコリュウ(自己流)」「インチキ東北人」と自嘲しつつ喜々として北三陸の言葉を使う。テレビドラマではこれまで、方言は生まれ育った土地と結びついたアイデンティティのシンボルだった。しかしアキにとっては「自分はこの方が好きという気持ちの表れ」(脚本の宮藤官九郎)。ニセ方言が自己表現の手段となった。

このようにネーティブではない人が方言を部分的に使う現象を、田中は2011年の著書で「方言コスプレ」と名付けた。関西人ではないのに日常会話で「なんでやねん」と突っ込みを入れるのが典型例だ。

「あまちゃん」という「方言コスプレドラマ」が登場し、広く受け入れられたことは、今の日本が標準語の行き渡った社会になったことの表れだと田中は見る。「だからこそ方言の価値が上がった。1970年代にテレビCMで使われた東北弁を、小学生が面白がってまねて話題になった。当時は「地方をバカにしているのか」と批判を浴びたが、今ならそうはならないだろう」(田玉恵美)



たっぴらかす! たたきのめす

んざんかいりや? どこ行くの?

琉神マブヤー

ちばりよー 頑張れ

松原敏夫

「日本語はこんなに話せるのに、どうして私は自分が育った沖縄の言葉が話せないんだろう」

——親川志奈子

あしば 遊ぼう

いー ん

Shikoku

(G-3面から続く)

Kas sa räägid eesti keelt? エストニア語を話しますか? 「言語警察」が能力チェック



スツ姿でいかにもきちょうめんそうなイルマル・トムスク(49)は、写真のコピーを手に説明を始めた。エストニアの首都タリンの街角で撮影されたもの。商店やレストランの看板に「Trendy Bags」「Lounge」などと英語が書かれている。世界のあちこちで見られそうな光景だ。

「我が国の法律によると、全ての市民はエストニア語で情報を得る権利を持っています。店主らは『観光客向けだからこれでいい』と言うのですが、エストニア語で記すよう要請しています」

トムスクが所属するのは、国の教育研究省の附属機関「言語監督庁」。通称「言語警察」だ。街角でエストニア語以外の表示が目立っていないかチェックするのが仕事の一つ。彼は1995年以来、一貫して長官を務めている。

エストニア語は、この国唯一の公用語で、大多数の市民が話している。にもかかわらず、まるで少数言語であるかのような危機感をトムスクたちが抱いてきたのは、国内にロシア語人口を抱えるからだ。今こそロシア語の看板を国内で見るとはほとんどないが、「90年代初め、街の表示はほとんどロシア語だったのですよ」。

エストニアは大戦前期の1918年から40年まで独立を維持した後、ソ連に併合された。以後、多くのロシア人が移り住み、すべての市民がロシア語を強要された。ソ連崩壊直前の91年にエストニアが独立を回復した後もロシア系住民は残り、現在も全人口の25%を占める。

ウラル語族のエストニア語と印欧語族のロシア語とは、文字が異なり、話しても全く通じない。世界にいるロシア語の母語話者は1億人以上。人口約130万のエストニアにとってあまりに巨大だ。

独立後も、ロシア系の多くはロシア語しか話そうとしなかった。新国家の求心力を保つ上で問題だと見なした政府は、彼らに対するエストニア語教育を進めた。特に、ソ連時代から残る警察官や教師、医師らの中でロシア語しかしゃべれない人を取り締まる権限を、監督庁に与えた。

「病院でロシア語しか通じなかった」「ロシア語の看板が残っている」。こんな住民の通報や苦情があると、監督庁は「出動」する。2012年には、ロシア語人口の多い地域で言語能力を内部調査したところ、警察官145人のうちエストニア語をきちんと話せるのは16人だけだった。監督庁は、129人にエストニア語を学ぶよう要請。授業料を補助する一方、試験に落ちた67人には罰金を科した。

「罰金といっても、信号無視より少額です」とトムスクは言う。

この活動は、内外の人権団体やロシア系から批判を受けてきた。アムネスティ・インターナショナルは07年、「言語少数派が嫌がらせを受けている」などと非難。ロシア系国会議員ミハイル・スタリス

ーヒン(52)も「まるで中世の異端審問のようだ」と、監督庁の閉鎖を求めている。

トムスクは反論する。「ロシア系新聞には、私たちが何千人も使って言語を監視しているかのように書かれた。実際には、監督官は全国に15人しかいない。強圧的な対応なんてできるわけがない」

エストニアの言語政策の基本は「国民全てがエストニア語を話すこと」。世界では、少数派の言語に公用語と同じ地位を与えて保護する国も少なくないが、「それでは、国家統合に支障が生じる」と教育研究省言語政策局長のピレト・カルネル(52)。ロシア系は少数派でなく移民



ナルヴァの幼稚園にも、エストニア語の教材が各教室にあった

だと位置づけ、言語の保護の必要性を否定する。

実際に市民レベルの現状はどうなっているのか。

エストニア北東端、ロシア国境の町ナルヴァを訪ねた。住民の95%前後がロシア系。日常会話もすべてロシア語だが、子どもたち全員がエストニア語を学ぶ制度が確立している。幼稚園や小学校ではエストニア語が必修。高校では、6割の授業でエストニア語を使う。

少なくとも子どもたちに対しては、政府の統合政策がうまく機能しているようだ。「問題は、ロシア系の年配者です」と、ナルヴァのロシア語紙ナルフスカヤ・ガゼータの編集長セルゲイ・ステパノフ(46)。40代後半以上のロシア系はエストニア語の学習意欲が薄く、ロシア人としての帰属意識が強いという。

ソ連時代に支配的だったロシア語は今やこの国で、少数派の悲哀を味わわされている。しかし、エストニア語社会への統合を目指す政府当局に、手を緩める気配はない。国境の向こうに広がる巨大なロシア語社会を常に脅威と感じているからだ。(国末憲人)

[エストニア語] ●ウラル語族のバルト・フィン諸語に属する。エストニア唯一の公用語で、約110万人が母語とする。フィンランド語に近いが、ドイツ語から多くの単語が入っている。

多言語共存を目指すガガウズ語



州の東部、旧ソ連の国モルドヴァの南部に「ガガウズ自治共和国」がある。人口約16万の8割ほどがトルコ系言語ガガウズ語を話す。農村地帯でワインが特産だ。モルドヴァ

がソ連から独立した1991年の前後、ガガウズも一時モルドヴァからの独立を目指したが、94年にはモルドヴァ国内の自治共和国にとどまる道を選んだ。

中心都市コムラトは人口3万足らず。国立コムラト大学民族文化学部には、世界唯一のガガウズ語学科がある。授業をのぞくと、真剣な表情の2年生が8人。指名を受けた女子学生オリガ(20)が黒板の前に立ち、課題の作文を、単語一つひとつと小声で反復しながら書いていく。「将来は教師になって、ガガウズ

語を子どもたちに教えたい」

旧ソ連時代は学校教育がすべてロシア語になり、学ぶのも難しかった。ユネスコの危機言語調査では、「極めて深刻」「重大な危険」に続く「危険」の状態だと判断された。その言語を守ろうと、理解や知識を深めるプロジェクトが自治共和国を挙げて進められている。

もっとも「取り組みの度が過ぎないようにも注意しています」とガガウズ大統領のミハイル・フォルムザル(54)。ガガウズの住民のうち、モルドヴァ人とブルガリア人が約5%ずつ、ロシア人とウクライナ人もそれぞれ3%以上。「様々な民族が暮らし、様々な文化があるのがガガウズです」

誰もが最低三つの言語をしゃべるのがガガウズの目標。大統領はガガウズ語、モルドヴァ語、ロシア語を話すという。コムラト大学でもガガウズ語が必修である一方、ガガウズ語学科の学生も他言語を必ず学ぶ。複数の言語に触れることで言語感覚を磨き、文化の多様性を知る狙いがあるという。(国末憲人)

[ガガウズ語] ●アルタイ語族に属し、話者は周辺諸国も含め約15万人余り。トルコ語に似ているが、語彙(ごい)や表現がより古風。トルコ人がイスラム教なのに対し、ガガウズ人はキリスト教徒だ。ソ連時代はロシア語と同じキリル文字で表記されたが、現在は英仏語などと同じラテン文字表記が一般的。

「母語として話す人が多い言語」(万人)

- 1 中国語 11億9700
- 2 スペイン語 4億600
- 3 英語 3億3500
- 4 ヒンディー語 2億6000
- 5 アラビア語 2億2300
- 6 ポルトガル語 2億200
- 7 ベンガル語 1億9300
- 8 ロシア語 1億6200
- 9 日本語 1億2200
- 10 ジャワ語 8430



「東京で何千人もの警察官が中国語しかできない様子を想像してみてください。我が国で起きているのは、そういうことなのです」
——イルマル・トムスク

Tänan väga
ありがとうございます

Tere hommikust
おはよう

Husat päeva!
よい一日を

近代国家が 必要とした「国語」

「国語」を必要とするのは近代国民国家の特徴だと言われる。軍隊や教育制度を効率よく動かすためには、皆が同じ言葉を使った方が都合が良いからだ。国民は国語を学ぶことで社会的上昇の機会を得る。国語には、国家の統一性を示すシンボルとしての役割もある。その典型が法の下での平等を訴えたフランス革命だ。「平等」であるためには同じ言語を話す必要があるとの考え方を徹底した。

明治維新後、日本も国語という「制度」を創設する。欧州に学んだ学者たちが「国語」で国民の一体感を呼び起こそうとした。井上ひさしは戯曲「国語元年」で、明治初期に全国共通の話し言葉を作るよう命じられた文部官僚の奇妙な奮闘を描いた。当時の日本はまさにお国言葉のつぼ。後に文部大臣になる森有礼は、簡易英語を国語にすることを提案したほどだ。

実際に何を国語とするべきか。文部省の国語調査委員会は1916年に「口語法」を刊行し、東京の教育ある人々の話し言葉を標準語とした。学校教育で標準語励行運動が進み、「標準」から外れた地方に劣等感を植え付けることになった。

「日本語」は今でも多様だが、現代の日本人は、日本はもともと均質な言語社会だと考えがちだ。それは「近代以降に広まった認識」だと一橋大学准教授(近代日本語史)の安田敏朗は言う。「制度としての国語は、国家の歴史や愛国心と結びついて排他的になりがち。言葉は国家のものではなく、私のものだという考え方がもっと意識されている」◎(田玉恵美)

「これからは 英語……」 論吉の落胆

江戸時代の日本で、花形の外国語といえばオランダ語だった。だが黒船が来航して開国すると、英語が取って代わる。高度な学問水準を誇った英国が最大の貿易相手国となり、圧倒的な存在感を示したからだ。オランダ語を教えるため、江戸へ出た中津藩(大分県)の福沢諭吉は開港後の横浜を訪れ、「死にものぐるいでオランダ語を勉強してきたが、これからは英語をやるより他にない」と落胆した。

明治時代、井上毅がドイツこそが近代国家のモデルだとして独語重視策を推進したり、戦前の旧制高校が一部で独語や仏語を重視したりした例はあるが、英語の地位は揺らがない。

敗戦後は、GHQの占領で主流がイギリス英語からアメリカ英語に代わった上で、英語重視の流れは引き継がれた。「外国語学習は政治や経済の影響をいや応なく受ける。ソ連が日本を占領していたら、みんなロシア語を習っていたかもしれない」と和歌山大学教授(英語教育史)の江利川春雄は話す。

ただ、文科省が外国語の履修を中学で必修にしたのは実は2002年のこと。それまでの中学の英語の授業は何だったのか?

「選択科目の英語が、『事実上』必修になっていただけ」と日本学術振興会特別研究員の寺沢拓敬(言語社会学)は言う。寺沢は近著で、1950～60年代に英語が高校入試に採用されたことなどにより「なし崩し的に」中学で必修状態になった様子を明らかにした。「なぜ『全員が』英語を学ぶのかについて、説得力のある目的が編み出されてきたわけではないことに驚いた」◎(田玉恵美)



ジャック・ミヤール

La langue de la République est-elle le français?

共和国の言語はフランス語ですか?

今

年1月22日のフランス国民議会(下院)の審議は、いつになく熱を帯びていた。演台に立ったのは、前大統領サルコジの演説を任期中一貫して起草し、現在は野党右派の議員となったアンリ・ゲノ(57)。国家の威信を何より重視する立場を取る。

「あなた方は国家と、文化と、歴史を見誤ろうとしている」

重鎮の切った大見えに、議場から拍手とブーイングが同時に上がった。

ゲノがこれほど反発する対象は、仏政府が批准を目指す「欧州地域少数言語憲章」。欧州各国で少数民族が伝える言語の保護や振興をうたった欧州評議会(加盟47カ国)の条約で、25カ国が批准した。ただ、フランスは1999年に署名したものの、批准に必要な議会の承認を得られていない。ゲノに代表される根強い反対意見があったからだ。

「言語は国家、国家は言語。わが共和国で人々を束ねることができるのは、仏語以外にありません」。ゲノの演説に議場で拍手を送った一人、右派議員のジャック・ミヤール(66)はこう説明する。

フランスには、西部のブルトン語、南部のオック語など、様々な地域言語がある。「地域言語に学ぶ価値があることは否定しません。ただ、行政の言語は仏語しか認めない」とミヤール。

フランス人は、階級や共同体の束縛と闘い、近代的自我の確立を追い求めてきた歴史を誇る。その結果、「市民は集団を介してでなく、個人として国家と向き合うべきだ」との考えが根強く、宗教や民族を基準に集まることを「コミュニティー主義」(コミュニタリズム)と呼んで警戒する。集団が分離の動きにつながり、国家の

統一を脅かす、との危惧も抱く。フランス革命時には地域言語の追放がうたわれたほど。現在の憲法にも「共和国の言語は仏語」と明示されている。

法律の違憲審査を担当する憲法評議会も同じ立場から、「憲章は市民の平等に反する」として違憲と判断したことがある。「ソ連やユーゴスラビアが崩壊したのもコミュニタリズムが原因。「憲章」は国家にとって脅威」とミヤールは力説した。

地域言語を守ろうとする側は当然、こうした考えに反発する。ブルターニュ地域圏議会副議長のレナ・ルアルン(63)は「ブルトン語は長年にわたって国家から禁止された歴史を持つ。言語復興の象徴として『憲章』は欠かせない」。

政府は、他の欧州諸国と足並みをそろえようと批准を目指す。下院では賛成多数を得たものの、ゲノやミヤールら野党だけでなく、与党からも反対する議員が出た。今は上院での審議を待つ。

もっとも、実際にはフランスでも、地域言語の振興は盛り上がりを見せる。ブルターニュ地方では、仏語とブルトン語との複数言語で授業をする学校が80年代

以降急増し、2013年現在で450校、生徒は1万5000人あまりに及ぶ。

過去にはブルトン語が地域分離運動と結びついた時期も確かにあった。しかし現在、親たちが子どもを複数言語校に入れる最大の理由は、子どもの頃から両言語を学ぶと英語など外国語の習得が早いからだという。

ブルトン語のテレビ番組制作者ミカエル・ボデュ(55)は「『地域言語を振興すると共和国が終わる』なんて、フランス以外に通用しない理屈だ」。

一方、ブルトン文学を教える西ブルターニュ大学教授ロナン・カルベス(43)は「『憲章』が脅威だ

という論理も、『憲章』があれば言語が守られると考えるのも、どちらもばかばかしい」と、双方を批判する。「社会の変化に伴って地域言語が衰退するのは、ある意味で当然だ。無理に振興しようとする必要があるのかも、考えた方がいい」と話す。◎(国末憲人)



仏ブルターニュ地域圏議会は最近、ブルトン語との両語併記を導入した

[ブルトン語]●地元ではブレイス語と呼ばれ、印欧語族のケルト諸語に属する。フランス西部ブルターニュ地方では20万人前後が話す。日常的に使う人はずっと少ないとみられる。

119万部突破!!

<シリーズ累計>

癒されて、笑えて、
タメになる本!

人生は ニヤンとかなる!

明日に幸福をまねく68の方法
水野敬也+長沼直樹



定価 1,400円+税
ISBN 978-4-905073-04-8



アピールしなき
ハスは来ない



人生のお楽しみは、
これからだ!

68枚の写真と、272個の偉人の逸話と格言で、人生で大切な教えが楽しく書かれた新しいタイプの本。1ページ1ページが切り離せるので、部屋に貼ったりプレゼントしたりもできる、お得な1冊です!

文響社

〒105-0001
東京都港区虎ノ門1-11-1
www.bunkyoisha.com

お電話での注文は
ブックサービスへ
Tel. 0120-29-9625

Amazon



Tem algum problema? / 有什么困难吗? / 何か困ったことはありますか? 移民言語の明日

静

岡山菊川市に住む日系ブラジル人3世の本多忠男(29)は日系人の妻(31)と4人の子供、両親と第一家の計11人で、一軒家にぎやかに暮らす。家では毎日、二つの言語が飛び交っている。本多が妻や両親と話す時はブラジルの公用語ポルトガル語、妻の連れ子や日本人である弟の妻とは日本語。本多が「おはよう」とあいさつすれば、妻は「Bom Serviço! (頑張ってるね)」と仕事に送り出す。

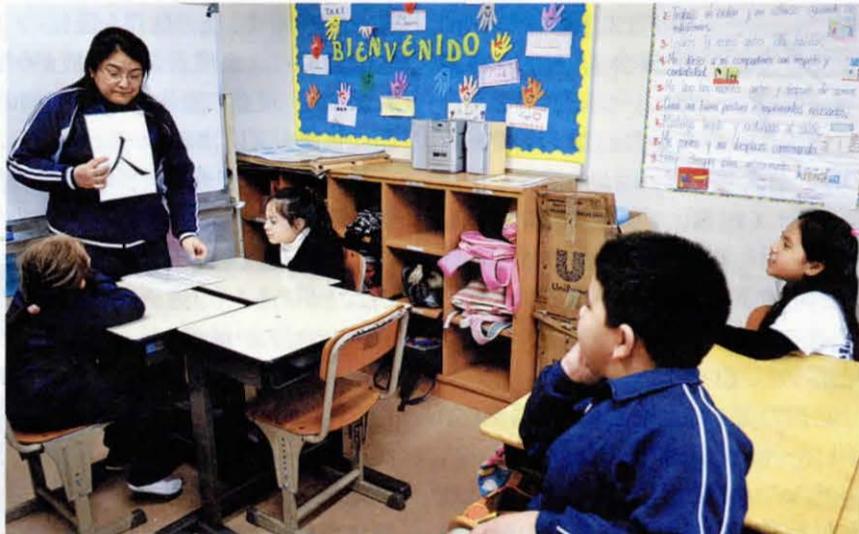
本多は12歳で来日。中学を出ると働き始めた。日本語はあいさつ程度しかできず、独学で身につけた。派遣社員として週6日工場で働き、週末は廃品回収業を営む。仕事に使う数々の免許の取得に日本語で挑んでいる。

一方で昨年、結婚を機に一念発起して、仕事の後にブラジル人学校の補講に通い、1年かけてブラジルの高校修了証を取得した。いずれ帰国するからではない。日本で安定した生活を築くためだ。「高校卒業資格はよりよい仕事を見つけるのに必要だ。日本の教育、文化、すべてが好き。ここで家族もできた。僕の根っことは日本にある」

本多が通ったブラジル人学校「エスコラー・ブラジル」は、全国で最も多くの日系ブラジル人が住む浜松市にある。校長の成瀬敏夫(60)は1990年来日した。出入国管理法が改正され、日系人とその家族に日本で働ける在留資格が認められたからだ。

ポルトガル語も日本語も話せたため、来日当初は自動車部品工場に通訳として働いた。会社に頼まれ職場で日本語教室も開き、習いに来た日系人の妻(53)と出会って結婚。日系人の希望者にポルトガル語を教え始めると口コミで生徒が増え、算数や理科が加わり、99年に学校を創設。ブラジル政府の認可も受けた。最盛時は178人が学んでいた。

だが2008年のリーマン・ショックで、仕事を失って帰国する日系人が相次いだ。生徒数は激減し、現在は17人。それでも学校を閉じないのは「仲間を放っておけないから」だ。ある日系人家庭では両親が離婚し、日本の学校に通ってポルトガル語を忘れ始めた10代の兄弟を、日本語が不得手な母親が独りで育てることに。「子どもと話ができない」という母親の悲痛な訴えを受け、成瀬は



スペイン語による漢字の授業。ムンド・デ・アレグリアでは漢字をまず目から覚える photo:Goto En

兄弟に2カ月間、ポルトガル語を教えた。「親に日本語を教えるより、子どもにポルトガル語を教えるほうが早いね」

入管法改正から24年。低賃金の労働力として期待され、南米から「デカセギ」で来日した日系人の中には、日本に根を下ろす人も少なくない。浜松市郊外にある外国人学校「ムンド・デ・アレグリア」では、スペイン語とポルトガル語に加え、日本語の授業にも力を入れる。「将来のビジョンを描けない親も多い。子どもには日本でも進学や就職ができる選択肢を準備してあげたい」と校長の松本雅美は言う。

経済的な理由で授業料のかかる外国人学校に通えず、日本の公立校に通う外国人の子も多い。全国の公立小・中・高校などで日本語指導が必要な子は約2万7000人。彼らの母語はポルトガル語やスペイン語、中国語、フィリピン語などだ。そうした子が学校に一定数いれば指導教員を増やせることになっているが、多くの自治体では人的、財政的な制約から十分に配置できない。そもそも

外国籍の子は就学義務がなく、最初から学校に通わせない親もいる。

外国人が多く住む自治体は、日本語の補講や母語教室の開催などに独自に取り組んできた。文部科学省も14年度から、こうした生徒がいる学校は特別な指導ができる制度を整えたが、「母国語の維持は家庭と母国政府の役割」という姿勢だ。工学院大学教授の杉野俊子(英語教育学)は「外国人の子らが母語の力を維持しながら日本語を学べる体制を双方の政府が検討すべきだ。日本の子どもたちも、彼らの言語を通じて多様な言語観を育める」と指摘する。

政府は4月、働き手不足が深刻な建設業界で外国人労働者を増やすことを決め、介護や家事援助でも受け入れる方針を示した。期間限定で永住を認めない技能実習制度を活用し、「移民政策と誤解されないよう配慮する」(安倍晋三首相)という。だが言葉も文化も違う外国人を社会に迎えることが、単なる在留要件の問題ではないことを、日系人たちの経験は投げかけている。(後藤絵里)

世界の移民言語政策

移民たちの言語をどう扱うか。移民が多い国々はその対応を模索してきた。オーストラリアはかつて、先住民や非白人の移民に同化(英語化)を迫ったが、1970年代以降、多くのアジア系移民を受け入れ、文化の多様性を認める多文化主義に転換。地域の事情に応じ、少数派言語の教育を充実させている。英語と仏語を公用語とするカナダには、アジア系や中・東欧系などさまざまな住民がいる。少数派の言語権を求める声を受け、88年に世界初の多文化主義法を成立させ、母語教育に力を入れてきた。北欧のスウェーデンやフィンランドも移民に母語教育の権利を認めている。

一方、米国は連邦レベルの規定はないものの、英語が事実上の公用語だ。ただ、ヒスパニック系人口の増加で一部の地域で英語が通じない事態となり、州ごとに英語を公用語と定める動きが広がっている。(後藤絵里)

どっかい生きてる エスペラント

19世紀に世界の共通言語として考案されたエスペラントは、柳田国男や新渡戸稲造、宮沢賢治らが学んだ。1960～80年代には多くの大学にエスペラント学習のサークルがあったが、最近さっぱり見かけない。どこに消えたのか。

「現在では想像しにくいかもしれませんが、冷戦時代には東西を結ぶ唯一の中立的な共通語がエスペラントだと考えられたのです。日本の代表的な話者の一人、上智大学教授(社会言語学)の木村護郎(40)はこう説明する。

エスペラントの魅力は、この言語を学んだ人のネットワークが世界中に広がっていること。旅行に出たら名簿を基に連絡を取り、自宅に泊めてもらったり、街を案内してもらったり。エスペラントで意思疎通は自由に行える。木村は昨年度、1年間ドイツで在外研究に携わり、その間10回ほど欧州各地に出張したが、エスペラント仲間と泊めてもらい、ホテルを使わなかった。逆に、世界中からの仲間を自宅に泊めることも多い。

家族の間でエスペラントを話す家庭も、日本にこれまで数十軒ほどあったという。ほとんどは、エスペラントのネットワークで知り合っただけで国際結婚したケース。そのような家庭の子供も、エスペラントと日本語のバイリンガルに育つこともある。

現在も10程度の大学でサークルや学習会が存続しているという。現代はネットで学ぶ人も多く、意外と衰退していないのでは、と木村は考えている。(国末憲人)

【エスペラント】●1887年にユダヤ系ポーランド人医師ザメンホフが考案した人工言語。欧州諸語の語彙(ごい)を取り入れつつ、簡易な文法を構築し、民族の違いを超えて橋渡しとなる言語を目指した。話す人は世界に100万人ほど、国内に1万人ほどといわれる。



Obrigada
ありがとう

Obrigado
ありがとう

De nada.
どういたしまして

成瀬敏夫

Bom dia!
おはよう!

本多忠男

Como vai?
元気かい?

ことばにめざめる

4

歳の息子が通う保育園にリビア人の子が転入してきた。やんちゃ坊主でいつも先生が後を追いかけている。おしゃべり好きだが、日本語は話せない。ある日、教室の壁に先生の手書きのアラビア語単語表が張られているのを見つけた。「ダメ→ラー 良い→ナム おしこ→ビッピー……」

迎えに来た父親が子どもに話しかけている。何を話しているのかな——聞き慣れない外国語の響きに耳を澄ます。

最近、暮らしの中で日本語でも英語でもない言語(ことば)に触れる機会が増えた。ふだん何げなく使っている言葉について考えるのはそんな時だ。まったく言葉が通じない世界に行ったら、私はどう感じ、どう行動するだろう?

言葉はコミュニケーションや社会生活の道具だ。国家にとっては社会統治の手段でもある。フランスやエストニアは国の結束を強めるため、言語を重要な政策の柱に据える。グローバル化で母国以外の国で暮らす人が増え、世界のあちこちで言葉をめぐる葛藤が起きている。

日本にも人口の1.6%にあたる204万の外国人(在日韓国人・朝鮮人を含む)が暮らすが、この社会は誰もが日本語を話すことが前提だ。外国語を話す子どもたちの中には、どちらの言語教育の網からもこ

ぼれ落ちる子が出てくる。一方で、海外に暮らす日本人も増えている。自分の意思だけでなく、会社や家族の都合で海外に住むことになり、言語の習得に苦労する人も多いはずだ。そんな時代に私たちは、ことばどう向き合えばいいのか。

ハワイ語復興(G-2面参照)の取材の終盤、州都ホノルルで教育委員長のドン・ホーナー(63)に会った。州教育委員会は年初にハワイ語に関する新政策を打ち出した。ハワイ教育局を新設し、トップにハワイ語教育の専門家を据え、ハワイ語による教育の拡充を図る。従来の英語教育と併存させ、子どもと親の選択肢を増やすという。「二つの言語・文化を理解する子どもたちを育てたい」とホーナーは言う。「言語を守るための政策ではない。最も適切な方法で子どもたちの能力を伸ばすためのものだ」

ホーナーは地元銀行の頭取を務め、数多くの部下を見てきた。文化と言語を土台にしたハワイ流の教育を受けた子どもたちは、自分自身を正しく理解し、個々の能力を発揮できていると感じたという。

ハワイ語で保育をする幼稚園が生まれて30年。言葉の防人(さきもり)たちの懸命な努力で言語消滅の危機は免れたものの、ハワイは米国の一部であり、行政もメディアもビジネスも、使うのはもっぱら英語だ。「英語教育を受けないと社会で成功できない」という考えはハワイ人にいまも根強い。そんな人々の言語観に、州教育委員会の動きは一石を投じるかもしれない。先住民の言語と文化はハワイのかけがえのない価値であり、英語かハワイ語かの二者択一ではなく、二つの言語

を学ぶことで人々の可能性を広げられるというのだから。そんなハワイの選択に、私たちが言葉と向き合うためのヒントもあるように思う。

誰もが、生まれ育った国で、自然に身につけた言語を使って暮らせるなら幸せだ。だが、世界にはそれがかなわない人もいる。日本に長く暮らす日系人が母語を維持しながら日本語を学ぶこと。沖縄の人たちがしまくとぅばの担い手として自覚すること。彼らが言葉を失わずに済むよう、社会が多様な選択肢を準備することは、ふだん日本語だけで暮らす私たちの言語観も変えていくはずだ。

国立民族学博物館教授(言語学)の庄司博史は、複数の言語を学ぶ意義を「1チャンネルしかないテレビから、多チャンネルのテレビに切り替わるようなもの」だと表現する。比較の対象ができ、自分たちの言語や文化を相対化できるようになるという。「私たちは気づかぬうちに、言語が規定する文化や価値の枠の中で考え、行動している。違う言語を話すとき、人はその閉じられた世界の外に出て、まったく違う世界に足を踏み入れる」

言語と文化は分かちがたい。私たちは言語を知ることで、その言語が担う文化の扉を開く。少数言語の復権に詳しい元電気通信大学教授の松原好次は「言葉の響きやわずかな単語を知るだけで、異質なものへの警戒心が薄れ、相手を理解しようという姿勢が生まれる」と言う。多言語化が進む社会で、そんな「ことばへの気づき」がもたらす効用は、決して小さくないだろう。(後藤絵里)

RとL 聞き分ける日本人の赤ちゃん

日本人は英語のRとLの発音を聞き分けるのが苦手だ。だが、生まれたばかりの日本人の赤ちゃんは、この二つを聞き分けているという。

米ワシントン大学などの研究チームが、日米の赤ちゃん(それぞれ32人)に「ラ」をRとLの発音でそれぞれ聞かせた。どちらかをしばらく聞かせた後、急にもう一方の発音に変える。音の変化に気づいた赤ちゃんが近くのおもちゃを見たら、おもちゃが動くよう仕掛けた。赤ちゃんはその仕組みを学び、音が変わると途端におもちゃを見るようになるため、聞き分けているかどうかを確かめようという実験だ。

すると、生後6~8カ月の赤ちゃんでは日米の聞き分け能力に差がなかった。ところが、10~12カ月では米国の赤ちゃんの能力は向上し、日本の赤ちゃんでは低下したという。日本語の「ラ」の発音は英語のRともLとも違う。その日本語を母語として学ぶうち、赤ちゃんは二つの音の違いに注意を向けなくなっていくと考えられている。こうした事例は、他の言語でも報告されている。

一般に、人は成長するほど新しいことができるようになると思いがちだ。だが子どもが言語を習得する過程を見ると、「不必要な情報に無駄に注目しないようにすることを、無意識のうちに学んでいることがわかる。非常に合理的だ」と慶応大学教授(言語発達心理学)の今井むつみは言う。(田玉恵美)



ミカエル・ボデュ



町田健



——ドン・ホーナー——



安田敏朗



野々山義人

・プレゼント



1、ハワイ語単語帳(1名)、2、フラの本(1名)、3、ハワイ語の歌のCD(2名)、4、アロハシャツの本(1名)、5、エストニアの帽子(1名)、6、エストニアの人形(6名)をプレゼントします。今号のご感想と希望の品、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号をお書き添えのうえ、globe-voice@asahi.comへメールで、または〒104-8011(住所不要)朝日新聞GLOBE編集部「ことば」読者プレゼント係へはがきで、ご応募ください。5月3日(土)締め切り(消印有効)。発送をもって当選発表とさせていただきます。

・お知らせ

BS朝日「いま世界は」のGLOBE連動コーナーで、この特集が紹介されます。番組は4月20日(日)午後6時54分からの放映です。

iPad版GLOBE更新中! GLOBEではiPad版を無料で提供しています。新しいデザインで紙面より約2週間遅れで更新。(アプリはApp Storeで。朝日GLOBEで検索してみてください)

取材にあたった記者 国末憲人(くにすえのり) 1963年生まれ。パリ支局長を経てGLOBE記者。言語への人々の情念は時に感動的で、時に怖いと感じた。

後藤絵里(ごとうえり) 1969年生まれ。初任地の鹿児島で方言の響きに魅せられ、離任時には奇妙な鹿児島弁を話していた。いま思えば方言コスプレだったのか。

田玉恵美(たたまえみ) 1977年生まれ。文化くらし報道部を経てGLOBE記者。母語は信州上田弁だが、あまり話せない。取材中にめざめ、母の言葉に耳を澄ます日々。

リサーチ協力 野々山義人(ののやまよしと)

「ハワイ流の教育は 家族や地域への感謝を教え、 自律心を育む心の教育だ。 先住民文化に息づく精神が ハワイを特別な場所になっている」